

茅ヶ崎セントラルクリニック

症 例 概 要 氏名：T様（80代 男性）

病名：

- 1) 慢性腎不全（膜性腎症）
- 2) ネフローゼ症候群
- 3) 高血圧・脂質異常症・高尿酸血漿

経過：2016年11月に腎機能悪化、尿毒症出現により血液透析導入。慢性腎不全に因り、透析を行っている、ほとんどの方が永続的に透析をやめることはできない場合が多いが、患者は当院転院後に周囲の協力もあり腎機能が回復し、透析離脱に至った症例である。

内 容

膜性腎不全による慢性腎不全のため2016年11月に血液透析導入し、1回4時間週3回の血液維持透析を行っていた。性格的に穏やか、真面目であり、記憶力や判断力に問題は無かったが、高齢での透析導入に因る精神的・身体的負担が大きかった。患者さんに対して周囲の連携が良くとれており、生活面においては、介護施設に入所中であり、24時間看護の内服管理等のサポート、栄養士による食事管理があり、身体面ではリハビリによる筋力強化を図り転倒予防、QOL低下予防に努めて頂けた為、当院は精神的な負担の軽減とシャント管理を含めた全身管理に注力出来た。特に腫れやすい事、血圧の変動に対して、液温調整と下肢アップする事を注視した。2017年1月の定期血液検査結果においてCr値（3.89→1.52）及びBUN値（30.9→16.2）の低下が認められ、腎機能回復傾向であると判断。1回3時間透析へ変更し経過観察とした。2月になっても、値は上昇することなく、尿量増加傾向にあり透析間体重増加はほとんどなかった為、透析回数を週2回に変更。3月に入り、自尿800～1400ml/日程度に増加し、透析間体重増加なく、低カリウム血症認めた為、腎機能改善と判断。透析離脱が望ましいと考え、2017年3月をもって最終透析とした。

80代後半で透析導入し、それから離脱を迎える例は0%に等しい。当初は落ち込みもみられたが、回復傾向とわかるや否やご本人の意欲も湧き、「行きたい所がある」と目標を見つけられた事。専門性を活かし、域を超えた連携を地域で取れた事。急性腎不全からの透析であった為、適切な治療を行い、腎機能が回復した事。医師側の適切な判断をした事が透析離脱に繋がったと考えられる。